

新刊紹介

雲三昧 —空を飾る雲の図鑑—

村井 昭夫 著

橋本確文堂

2008 年 1 月発行, 141 頁, 2000 円+税

ISBN978-4-89379-115-3



本書は村井昭夫氏が雲を気軽に眺め楽しめるように、身近で普段の生活の中にある雲をテーマに撮影した写真をまとめたものである。

構成は大きく 2 つに分かれている。前半は 10 種類の雲の写真が高度別に掲載されており、後半は変わった形の雲、また形だけではなく違った視点からみた雲の様子、空に現われる光学現象が掲載されている。また、巻末には雲に関する基礎知識がコンパクトにまとめられており、鑑賞だけではなく理科教育に用いられるビジュアル図解の役割も果たしている。著者は「難しい解説はいらないがちょっとは知りたい」ということをモットーに本書を執筆しているので、とにかく見て楽しみたい、加えて内容も知りたいという人には最適である。

次に前半・後半の内容を詳しく見ていく。前半は 10 種類の雲である巻雲、巻積雲、巻層雲、高層雲（ひつじ雲）、高層雲（おぼろ雲）、乱層雲、積雲、層積雲、層雲、積乱雲が紹介されており、それぞれの写真には短い文が添えられている。これらの雲の写真は典型的なものはもちろんのこと、同じ雲でも例えば巻雲であればもう状、かぎ状など様々な形態が写真で紹介されているのが特徴である。このため、普段何気なく空を見上げたときに見られる雲により近いものを本書ではみるこ

ができるので、「あの雲はどんな雲だろう？」というふとした疑問に答えてくれる。その意味で普通の写真集や教科書とは違う魅力が本書にはある。

後半はいろいろな雲をテーマに変種の雲が数多く紹介されている。例を挙げれば波状雲、レンズ雲、ずきん雲、肋骨雲など名称だけでも楽しい雲が満載である。また、雲の表情という項目で紹介されている魚眼レンズから見た雲、上空からという項目で紹介されている飛行機の窓から見た雲、普段写真ではあまり見ることのない飛行機雲や大気光象（虹、彩雲、幻日など）はとても魅力的である。

最後の数ページには雲の基礎知識、大気光学の基礎が図解を用いて解説されており、雲に関する基本を短時間で理解することができる。

普段外を歩いていても空をまじまじと眺めることはあまりないが、上を見るだけで様々な表情を見せてくれる雲や光学現象があるにも関わらず、空を見ないのはもったいないことを本書は気づかせてくれる。著者のまえがきにもあるようにこの本をきっかけにして「空を見上げ雲三昧」という気持ちにさせてくれる本である。

（東海大学大学院理学研究科 高野 陽平）

（2008 年 4 月 1 日受付）